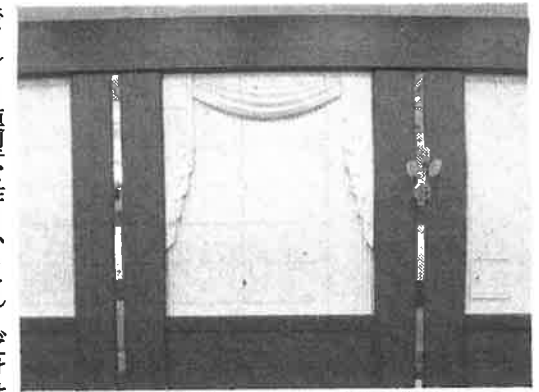


オーブン
カレッジ

今年の6月に学会出張があり、ぜひとも泊まりたいホテルがあった。剣持デザイン研究所が主なインテリア設計を行い、1982年に開業したホテルである。95年に大宴会場のリニューアル工事があり、著者がその設計担当者となった。

改装前の宴会場は、超高級壁クロスが貼られた壁面で、80年代当時の宴会場の定番であった。この定番を脱却するために考案したのが写真の壁面である。カーテンに見える部分は、GRG(繊維強化石膏)で、中央は市販の波型スレートを使用している。付柱・梁・

残したい1980~90年代のインテリアデザイン



ホテルの内壁デザイン (剣持デザイン研究所、担当：著者)

守した。現場従事者に心から感謝した。

竣工(しゅんこう)検査後にこのホテルに訪れることはなく、今回30年ぶりの訪問であった。その間にもう一度リニューアル工事があったが、この壁面

で1/2模型を作り、これを基に石膏装飾メーカーに製作を依頼した。はじめにスタイロフォームをワイヤーブラシで削り、原寸大の造形を作り出す。次にこれを雄型として石膏で雌型を作る。次に雌型に離型剤を塗布し、石膏を流し込み雄型を作る。この石膏雄型の表面を徹底的に研磨し塗装

だけは当時の原型を残してくれたことに、再び感謝の気持ちが込み上がった。少し残念なのが、パール塗装は白色塗装に塗り替えられていた。パール塗装のデータを伝授しておくべきだったと後悔したが、当時の特記仕様書は門外不出が一般的であった。

懐かしさから当時の面影をたどり、ホテル内を散策するが、その面影はほとんど残っておらず、商業建築のデザインの短命さを見せられた。

材料と加工法の技術の集積

腰壁は造作材に木目調のシートを貼っている。カーテン部のGRGの作り方は、事前にレース生地



榎山女学園大学学生生活環境デザイン学科教授 滝本 成人

たきもと・なりひと 専門分野はインテリアデザイン。名古屋工業大学大学院博士後期課程社会学専攻修了。博士(工学)。

を施す。次にこの石膏雄型を基にFRP(繊維強化プラスチック)で雌型を作る。雌型には研磨面が転写される。次にこのFRP雌型にGRGを流し込み、カーテン部品の量産を図った。出来上がった各所部品は現場組み立てとした。

塗装は通常のエマルジョンペイントに、酸化チタンを混入しパール塗装を再現した。現場作業を極力減らす設計で、工期2週間を厳

80~90年代のインテリアデザインは、バブル経済を背景に、さまざまな材料や加工法が開発された。また質の高い職人の活躍の場でもあった。しかし残念ながらこの時代のインテリアの多くはリニールの対象となり、保存の対象にはなっていない。インテリアデザインとは、見た目の形で捉えがちであるが、その背景には材料と加工法の技術の集積がある。後世に残す意味でも、この時代のインテリアの保存を呼び掛けた